

勝連 庁舎の跡利用案

日時：平成25年8月28日（水）19:00～
場所：勝連シビックセンター 2階研修室
参加人数：13名（事前見学会参加0名）

桃 チーム

現状分析と課題の抽出

- 高台にあることから津波避難場所となる
- ホールや図書館との一体的な利用も可能
- 中庭も利用できる
- 海、自然が素晴らしい
- 朝日・夕日の両方が見える

強み

弱み

- 世界遺産勝連城跡というネームバリュー
- 教育施設や体育施設、文化施設が近接
- うるま市としての歴史文化の拠点が未確立
- 自然条件が良い（花粉症がない、暖かい）
- 修学旅行生が訪れる
- 勝連城跡がある（集客力がある）

チャンスとなる要因

障害や困難となる要因

- 旧耐震基準の建物である
- 耐用年限は大きな問題ではない
- 規模が大きくない
- バリアフリーへの対応が不十分

- メイン道路から奥まったところにあるためアクセスしにくい（観光には向いていない）
- 公共交通がなく、島しょ地域からの移動は不便である
- 勝連城跡以外に行く場所がない
- 失業率が高い
- 沖縄の学生は目的を持って勉強する人が少ない

求められていること

＜地域意見交換会及び地区意見交換会＞

- 文化を発信する施設（博物館など）
- 観光、歴史、文化の拠点
- 与那城庁舎との統合
- 葬祭場
- 民間企業の誘致
- 保育機能

- 支所機能の存続
- 与那城庁舎との統合
- 旧庁舎に支所機能を残す考えは検討が必要と那城庁舎の方が利用価値が高い

＜庁舎の跡利用に関する市民アンケート＞

- 地元の雇用を生む場や市民の暮らしを便利にする場、文化を育む場
- 飲食店や生活用品を購入できる商業、保育所・児童館、市民サービス機能といった市民向け施設を期待している また、観光施設も期待している

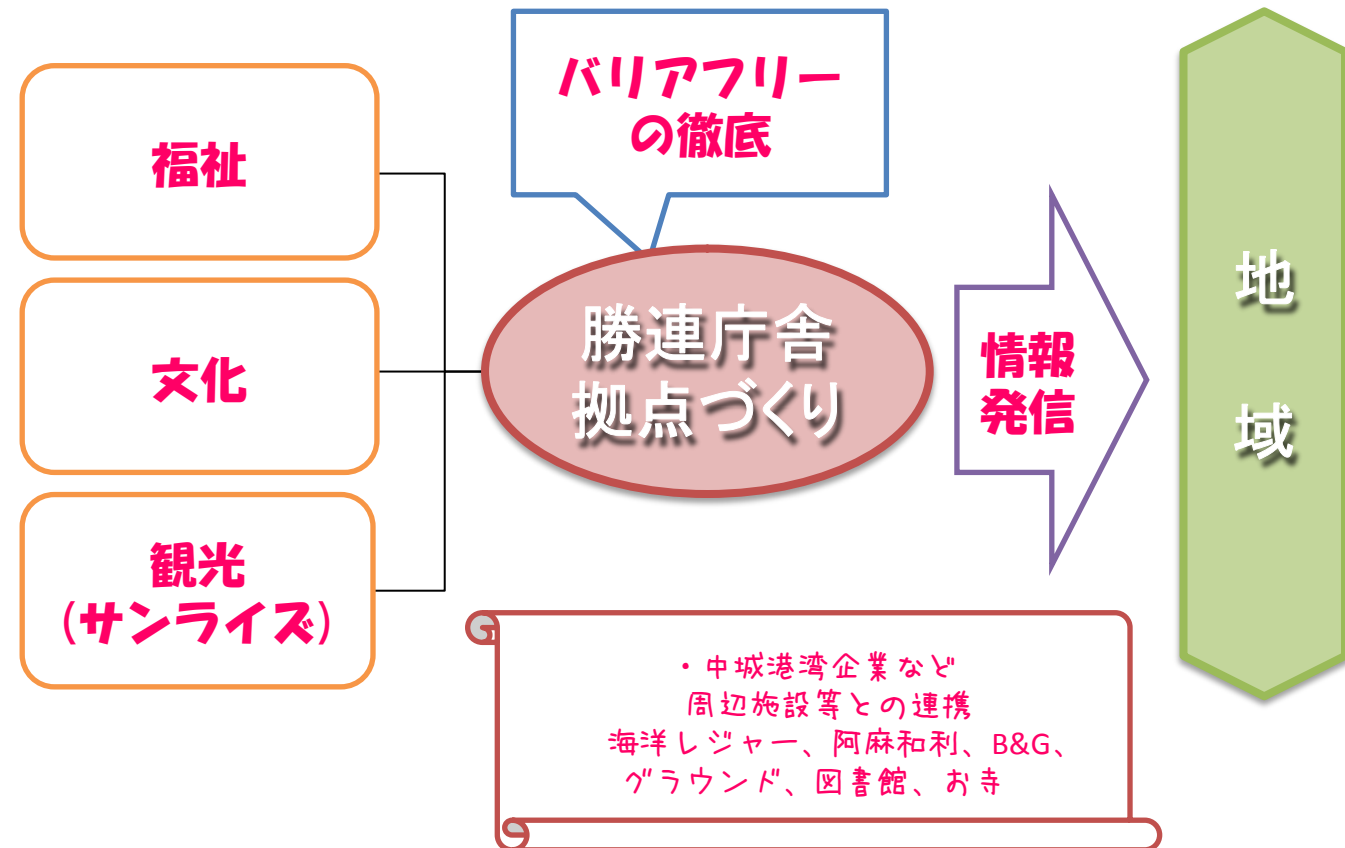
＜職員アンケート＞

- 子ども関連施設や防災関連施設、公園や広場、市営住宅が不足していると感じており、防災機能や市民サービス機能、子ども関連施設への期待が高い

- 過ごしやすい環境を活かす
- 県外から人を呼ぶ
- 子どもたちのための体験学習拠点
 - ・仕事に対する小さいころからの意識付け（ものづくりなど）
 - ・中城港湾企業との連携
- 勝連地区から沖縄の人材を育成する
- 防災拠点としての活用
- 17年後も利用できるような機能
 - ・建て替えも含めて考える

跡利用の方向性（コンセプト）と跡利用計画案（ゾーニング）

- ◆ 子どもたちが体験・学習できる情報発信拠点
- ◆ 人材育成拠点
- ◆ 肝高（きむたか）文化の継承・発展
- ◆ 誰でも来れる場所



・うるまの良さを体験できる
・うるまの情報を発信

・健康増進

・誰でも利用できる場所（庁舎2階を活用）

・人材育成の拠点

・首里支所のようなコンパクトな支所機能

・サトウキビの収穫・加工の体験学習

・情報収集と職業体験が一緒にできる
・共通通貨を使った職業体験